

東京慈恵会医科大学活動報告

◇概 略

平成 17 年度に、本学における漢方医学教育の充実を目的に愛宕漢方医学研究会を発足させた。この研究会には各科の責任者が参加し、教育機関である大学としての漢方教育のあり方について、大学や病院の組織を越えた検討の展開が期待できる体制をとっている。

◇組織構成

1) 愛宕漢方医学研究会

代表世話人 落合 和徳

附属病院副院長・産婦人科学教授

顧問 栗原 敏 理事長・学長

顧問 石川 友章 薬理学客員教授

事務局 法橋 建 総合診療部教授

卒後・院内漢方教育担当

神谷 直樹 産婦人科学教授

2) 附属病院総合診療部漢方外来

客員教授 石川 友章

診療医長 萬谷 直樹

リサーチレジデント 古賀 実芳

助手(研究協力) 田部 井 功

専門医研修 小林 康隆

荏原 太

森山 義和

長谷川 望

荏原 千登里

高橋 英吾

森 恵 莉

安田 千穂

◇教育と臨床

愛宕漢方医学研究会では、漢方医学の啓発と漢方医学教育を担う人材の育成を視野に入れ、①学外から講師を招き学内外を対象とした研究会を年 2 回、②学内医師・学生を対象とした勉強会を年 9 回開催している。当院は日本東洋医学会専門医制度研修指定施設に登録されているので、専門医研修を意識した教育内容と頻度を心がけている。

2009 年の勉強会は、テキストを用い、エキス剤を中心とした漢方薬の使い方について症状・疾患別に解説した。継続して参加する熱心な者には、症例発表などの機会を提供した。大学教育としての漢方を意識しながら、学習者の要望になるべく沿うよう今後も継続していく予定である。今後は近隣の教育機関と連携し、幅広く深度に多様性を

持たせた学習や交流の機会を作りたい。また、看護師から医療従事者向けの勉強会の開催を要望する声もあり、準備中である。

一方、臨床実地研修の場として、平成 18 年 11 月に総合診療部内に漢方専門外来を設置し、学内外の研修者を受け入れている。漢方専門外来の初診患者の受付は紹介患者に限定し、週 3～4 回外来を開設している。しかし、患者や他科医師からの需要に応えきれず臨時枠を常設している状況であり、専門外来担当医師の育成と組織化が急務である。教育・研究機関でもある大学の診療においては漢方薬を自由に選択できることが望ましいが、まだ満足いく体制にはなっていない。とはいえ、保険適用品は生薬・エキス剤のいずれもメーカーを問わなければほぼ処方可能であり、期せずして現実的な臨床研修が行える利点になっている。ただし、院内処方薬に関しては院外処方薬に比べて制約が大きいいため、該当部署と調整中である。

また、皮膚科やペインクリニックは独自に外来に東洋医学治療を導入しているが、兼科依頼により相互連携を増やし、治療効果を高めている。小児科、慢性疾患、悪性腫瘍患者の治療相談も増加している。今後は入院治療にも介入できるようになる事が望ましいと考えている。

このような大学での現況を踏まえ、愛宕漢方医学研究会が中心となり、学生から卒業生も視野に入れた大学・同窓全体の教育や組織のあり方についてさらに検討を重ねたい。

◇学生教育

医学部医学科では、3 年生の臨床基礎医学 I の中で「和漢薬概論」を講義した。講座責任者の落合和徳産婦人科学教授のもと、「和漢薬の考え方」を落合和徳が 1 講座、引き続き「漢方医学」3 講座を石川友章、「痛みと和漢薬」北原正樹（麻酔科学教授）、最後に「和漢薬の応用」として神谷直樹が 1 講座担当し、漢方薬の味を確認しながら行われ、学生の興味を高めた。1 講座は 90 分で、計 6 講義行った。

◇研 究

落合和徳教授の指導の下、古賀が漢方診断を用いた西洋医学治療の再評価について臨床研究を行っている。

◇論文・原著

- 1) Takakura S, Takano M, Takahashi F, Saito T, Aoki D, Inaba N, Noda K, Sugiyama T, Ochiai K; Japanese Gynecologic Oncology Group. Randomized phase II trial of paclitaxel plus carboplatin therapy versus irinotecan plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy for clear cell adenocarcinoma of the ovary: a JGOG study. *Int J Gynecol Cancer*. 2010;20(2):240-7.
- 2) Nagase S, Inoue Y, Umesaki N, Aoki D, Ueda M, Sakamoto H, Kobayashi S, Kitagawa R, Toita T, Nagao S, Hasegawa K, Fukasawa I, Fujiwara K, Watanabe Y, Ito K, Niikura H, Iwasaka T, Ochiai K, Katabuchi H, Kamura T, Konishi I, Sakuragi N, Tanaka T, Hirai Y, Hiramatsu Y, Mukai M, Yoshikawa H, Takano T, Yoshinaga K, Otsuki T, Sakuma M, Inaba N, Udagawa Y, Yaegashi N. Evidence-based guidelines for treatment of cervical cancer in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2007 edition. *Int J Clin Oncol*. 2010;15(2):117-24.
- 3) Satoh T, Hatae M, Watanabe Y, Yaegashi N, Ishiko O, Kodama S, Yamaguchi S, Ochiai K, Takano M, Yokota H, Kawakami Y, Nishimura S, Ogishima D, Nakagawa S, Kobayashi H, Shiozawa T, Nakanishi T, Kamura T, Konishi I, Yoshikawa H. Outcomes of fertility-sparing surgery for stage I epithelial ovarian cancer: a proposal for patient selection. *J Clin Oncol*. 2010;28(10):1727-32.
- 4) 矢内原臨, 岡本愛光, 柳田聡, 落合和徳, 田中忠夫. 【遺伝子診療学(第2版) 遺伝子診断の進歩とゲノム治療の展望】 遺伝子診断(Genetic Diagnosis) がんのゲノム解析と診療への応用 婦人科腫瘍 日本臨床 2010;68(増刊号8):489-493.
- 5) 山田恭輔, 岡本愛光, 矢内原臨, 田部宏, 高倉聡, 松本隆万, 上田和, 安西範晃, 高野浩邦, 落合和彦, 佐々木寛, 落合和徳, 田中忠夫. 卵巣癌治療における新たな展開 再発卵巣癌に対する腫瘍減量手術 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2010;28(3):396-402.
- 6) 落合和徳. 【臨床医学の展望2010】婦人科学—HPVワクチンと子宮頸癌予防について—. 日本医事新報2010;4483:50-53.
- 7) 萬谷直樹, 八巻百合子, 藤井泰志, 金子明代, 手塚健太郎, 喜多敏明: 乳糖コーティング製

剤による乳糖不耐症の頻度について. 日本東洋医学雑誌2010;61:185-188

- 8) 萬谷直樹, 岩崎友之, 小尾龍右, 藤井泰志: 酸化マグネシウム服用者と未服用者における血清マグネシウム濃度の比較. 臨床検査2010;54:701-703
- 9) 萬谷直樹, 小尾龍右, 藤井泰志: メトトレキサートとエタネルセプト併用療法抵抗性の関節リウマチに漢方薬が奏効した1例. 臨床リウマチ2010;22:204-207

◇学会活動

- 1) 古賀実芳, 平成22年6月5日、第61回日本東洋医学会学術総会シンポジウム4・女性のQOL改善と漢方-月経前緊張症(PMS)と月経困難症「月経に関連した痛みの漢方治療」、名古屋国際会議場3号館3階国際会議室、日本東洋医学会主催
- 2) 東京慈恵会医科大学、平成22年11月14日、第37回小児東洋医学会(宮川三平会長)開催協力、東京慈恵会医科大学大学1号館5階講堂

◇講演

- 1) 古賀実芳, 平成22年2月10日、「女性医療に役立つ漢方薬: 当帰芍薬散・加味逍遙散・桂枝茯苓丸を使いこなそう!」、静岡県産婦人科医学会、静岡市ホテルセンチュリー静岡
- 2) 古賀実芳, 平成22年5月14日、愛宕漢方勉強会・第14回『健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック』で学ぶ疾患別方剤の選び方1「呼吸器疾患」、愛宕漢方医学研究会主催、外来B棟6階G会議室
- 3) 古賀実芳, 平成22年6月19日、第520回温知会月例会「漢方処方解説: 越婢湯ほか」、温知会、湯島聖堂
- 4) 古賀実芳, 平成22年7月16日、愛宕漢方勉強会・第15回『健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック』で学ぶ疾患別方剤の選び方2「循環器疾患」、愛宕漢方医学研究会主催、外来B棟6階セミナーB
- 5) 古賀実芳, 平成22年9月17日、愛宕漢方勉強会・第16回『健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック』で学ぶ疾患別方剤の選び方3「消化器疾患」前編: 胃腸疾患・常習便秘、愛宕漢方医学研究会主催、外来B棟6階セミナーB
- 6) 古賀実芳, 平成22年10月9日、第10回愛宕漢方研究会「愛宕漢方勉強会から〜『冷え』に漢方を〜」、愛宕漢方医学研究会主催、大学1号館5階講堂
- 7) 古賀実芳, 平成22年10月14日、漢方学術講演

- 会「漢方で考える皮膚-皮膚は口ほどにものをいう-」、栃木県薬剤師会・栃木県病院薬剤師会共催、栃木県青年会館第ホール
- 8) 古賀実芳、平成22年11月14日、第37回小児東洋医学会シンポジウム「新型インフルエンザに負けるな」～「新型インフルエンザにおける漢方の役割」、小児東洋医学会主催、東京慈恵会医科大学大学1号館5階講堂
 - 9) 古賀実芳、平成22年11月19日、愛宕漢方勉強会・第17回『健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック』で学ぶ疾患別方剤の選び方3「消化器疾患」後編：潰瘍性大腸炎・肝疾患・胆石症・脾疾患・痔核、愛宕漢方医学研究会主催、外来B棟6階セミナー B
 - 10) 古賀実芳、第43回日本漢方交流会全国学術総会東京大会：大会テーマ「皮膚の病」：シンポジウム、社団法人日本漢方交流会主催、東京有明医療大学
 - 11) 古賀実芳、平成22年12月17日、愛宕漢方勉強会・第18回『健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック』で学ぶ疾患別方剤の選び方4「代謝・内分泌疾患」、愛宕漢方医学研究会主催、外来B棟6階セミナー B

◇その他(取材、雑誌原稿など)

- 1) 萬谷直樹：「Mimiよりなウワサツ」、横浜Walker、2010. No7. P64
- 2) 萬谷直樹：「東洋医学でキャッチする不調と未病のサイン 肥満」、ノジュール4月号、2010：86p
- 3) 萬谷直樹：「下腹によく効く！漢方薬の使い方」、日経ヘルスブルミエ5月号、2010、68-71
- 4) 萬谷直樹：「東洋医学でキャッチする不調と未病のサイン 秋バテ」、ノジュール10月号、2010：84p
- 5) 萬谷直樹：「専門外来探訪 漢方外来」、SQUET 9月号、2010：26p
- 6) 萬谷直樹：「血管脈波検査装置インタビュー」、FUKUREPO、2010：5p
- 7) 古賀実芳：30の更年期に効く漢方薬徹底活用ガイド、日経ヘルスブルミエ編、日経BP社、p.66-90、2010
- 8) 古賀実芳、「冬の月経不順「冷え」に注意」、産経新聞平成22年1月26日 p 17、産経新聞社
- 9) 古賀実芳：「自分でできる更年期の不調ケア」、オレンジページムックブレ更年期からの不調を治す本、オレンジページ、p31、2010
- 10) 古賀実芳：痛みの原因別・効く！漢方薬の使い方、日経ヘルスブルミエ編、日経BP社、p.66-69、2010

- 11) 古賀実芳：こんなのって私だけ？「眠いんです」、オレンジページムック元気になる！きれいになる！からだの本vol.5、オレンジページ、p54、2010
- 12) 古賀実芳、「薬膳茶でむくみとり」、日経ヘルスNo.148、日経BP社、p 72-77、2010
- 13) 古賀実芳、こころのセルフメンテ「漢方薬を試してみよう」、笑顔第41第巻7号、保健同人社、p 14-15、2010
- 14) 古賀実芳、イチからわかる漢方講座1「漢方ってどんなもの？」、日経ヘルスNo.152、日経BP社、p 86-88、2010
- 15) 古賀実芳、「不通則痛」と「不栄則痛」、phil漢方No.32、メディカルパブリッシャー、p 25、2010
- 16) 古賀実芳、イチからわかる漢方講座2 漢方薬を使ってみましょう」、日経ヘルスNo.153、日経BP社、p 112-113、2010